

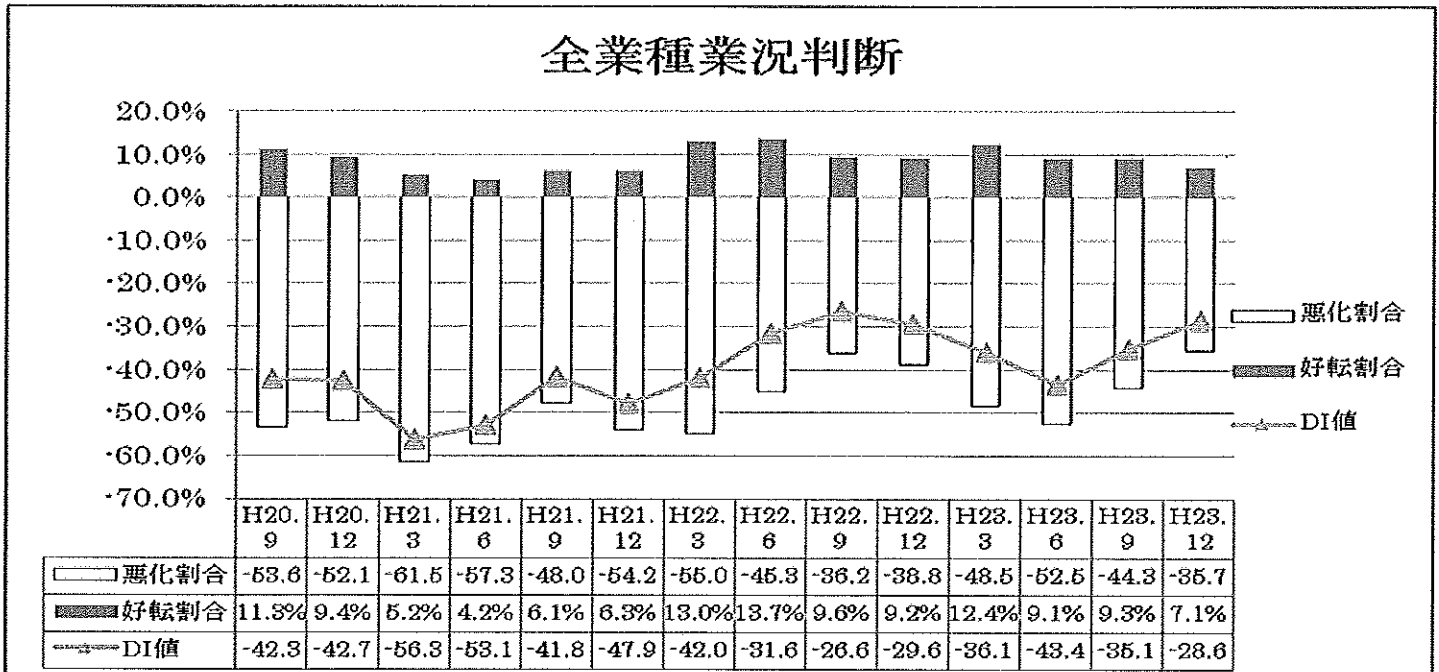
平成 23 年第 3 四半期景況調査の結果

平成 23 年 10 月～12 月期の景況の現状と平成 24 年 1 月～3 月期の見通し

1、概況 出羽商工会では、毎四半期ごとに、会員の「景況に対する意識調査」を実施している。今回は、11 月 7 日から 11 月 14 日まで全業種 100 社に対して聞き取り方式で実施し、98 社から回答を得た。

その結果、業種総合による業況判断指数・DI 値（「良い」－「悪い」企業割合）は、 $\Delta 28.6$ となり、9 月調査の、 $\Delta 35.1$ と比較して、6.5 ポイントマイナス幅が縮小を示し、業況は改善している。また、前年 12 月期（ $\Delta 29.6$ ）と比較しても 1.0 ポイントとわずかながら良くなっている。

業種別 DI 値は、製造業が 7.5、小売業が 19.7 ポイント、改善している。一方、建設業が 3.2、サービス業 5.5 ポイント悪化している。

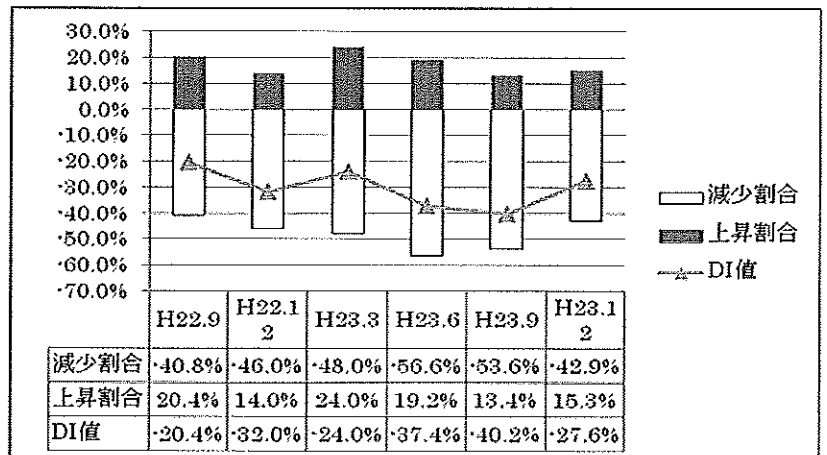


1) 売上額の推移 (全業種)・・・増加傾向

右のグラフは、直近の 1 年間売上額の推移である。

売上額は、今期 DI 値 $\Delta 27.6$ で 12.6 ポイント改善している。

しかし、右の図の通り上昇割合は、あまり変化が見られない。DI 値改善の要因は、減少割合の幅が小さくなったためである。

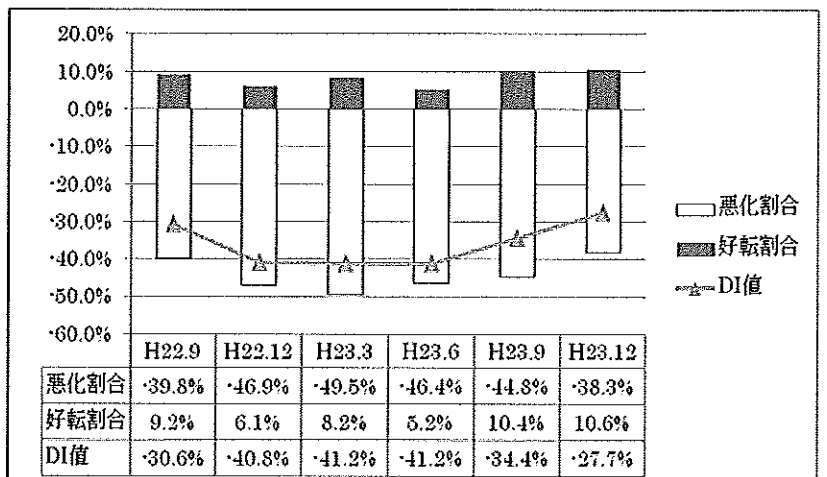


2) 採算の推移 (全業種)・・・好転傾向

右のグラフは、直近 1 年間の採算面の推移である。

採算面は、今期 DI 値 $\Delta 27.7$ で 6.7 ポイント好転している。

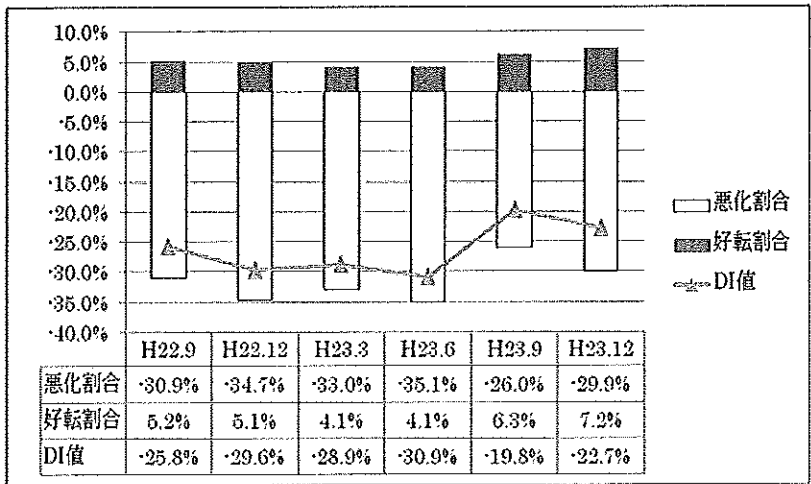
しかし、採算面でも右の図の通り、好転の割合あまり変化が見られない。DI 値好転の要因は、悪化割合の幅が小さくなったためである。



3) 資金繰り(全業種)・・・厳しい状況続く

右のグラフは、直近1年間の資金繰りの推移である。

資金繰りは、今期DI値△22.7で2.9ポイント悪化割合が拡大し、依然厳しい状況である。



4) 価格の状況(全業種)・・・ほぼ横ばい

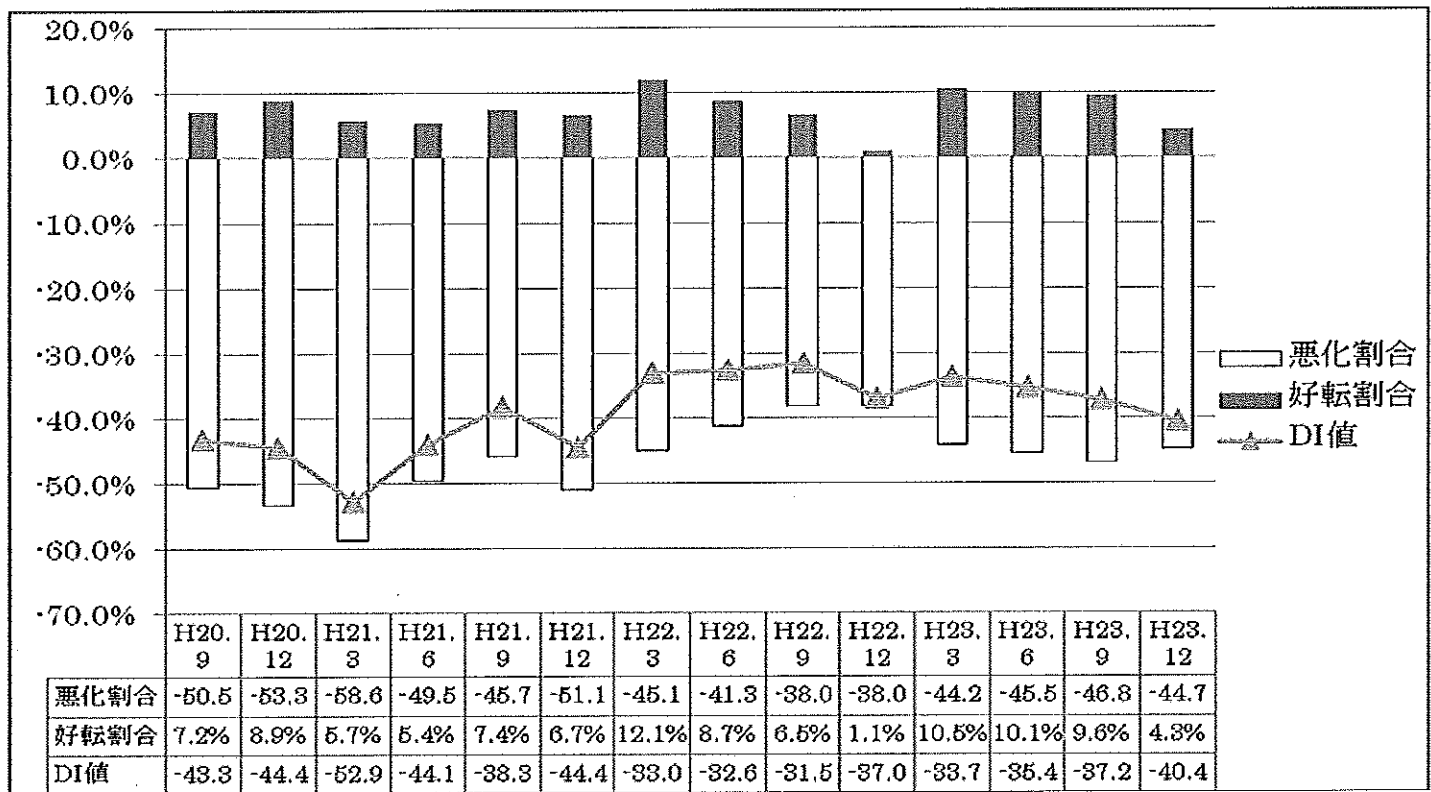
販売価格の状況は、今期DI値△24.7で2.3ポイント下落したが、ほぼ横ばいである。

仕入価格の状況は、今期38.0でDI値1.8ポイント下落したが、ほぼ横ばいである。

5) 在庫の状況(全業種)・・・ほぼ横ばい

在庫の状況は、今期、△24.0でDI値0.5ポイント減少したが、ほぼ横ばいである。

2、来期の見通しについて・・・悪化の見通し



全業種総合の来期(1月～3月)の予想判断DI値は△40.4で、3.2ポイントマイナス幅が拡大し、業況は悪化すると予想している。

業種別には、製造業が10.7、建設業が27.3ポイント悪化すると予想している。一方、小売業が14.4ポイント、サービス業が5.9ポイント好転すると予想している。

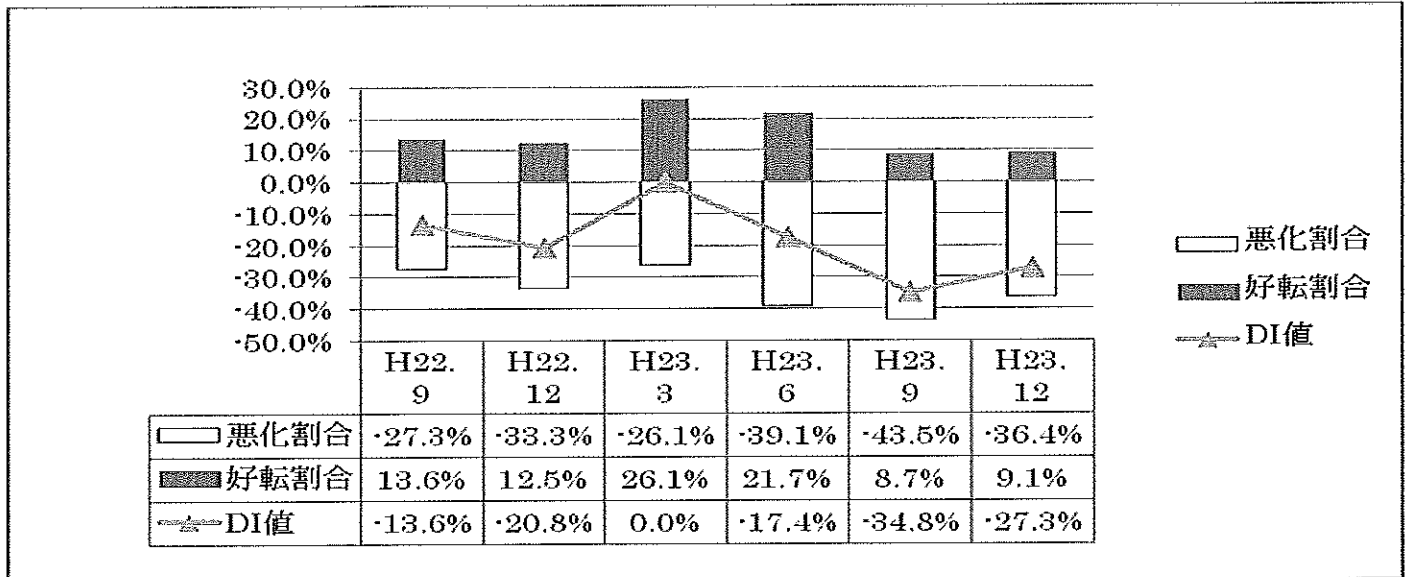
項目別には、売上額予想DI値は、△31.6で5.9ポイント悪化、採算予想DI値は、△31.6で2.5ポイント悪化、資金繰り予想DI値は、△33.3で1.4ポイント悪化するとそれぞれ予想している。

I、製造業

1、景況 -改善-

業況判断指数値 DI 値（「良い」 - 「悪い」企業割合）は、 $\Delta 27.3$ となり、9月調査と比較して 7.5 ポイントマイナス幅が縮小し業況は改善した。但し、前年同期（ $\Delta 20.8$ ）より、6.5 ポイントマイナス幅が拡大した。

業況判断[DI]



1) 売上額、採算の状況・・・今期売上・採算とも横ばい

売上額は、今期 DI 値 $\Delta 31.8$ で 3.0 ポイントマイナス幅が縮小したが、ほぼ横ばいである。

採算面は、今期 DI 値 $\Delta 52.4$ で、0.3 ポイントマイナス幅が拡大しているが、ほぼ横ばいである。

2) 受注残・・・減少

受注残の今期 DI 値 $\Delta 21.1$ で 10.0 ポイントマイナス幅が拡大し、受注残は減少した。

3) 価格の状況・・・販売価格上昇、原材料価格低下

販売単価の今期 DI 値は 0.0 となり、4.3 ポイントマイナス幅が縮小し、販売単価は上昇した。

原材料仕入単価は、今期 DI 値 55.6 となり 7.6 ポイント低下している。

4) 原材料在庫数量の状況・・・減少

原材料在庫数量状況は、今期 DI 値 $\Delta 27.8$ となり、27.8 ポイント原材料在庫数量が減少した。

5) 資金繰りの状況・・・厳しいながら好転

資金繰りの今期 DI 値 $\Delta 27.3$ となり、11.8 ポイントマイナス幅が縮小し好転した。

6) 従業員数の動き・・・増加

従業員数の動きは、今期 DI 値 10.0 となり、14.5 ポイント増加した。

7) 設備稼働率の動き・・・ほぼ横ばい

設備稼働率は、今期 DI 値 $\Delta 25.0$ となり、1.1 ポイントマイナス幅が縮小したが、ほぼ横ばいである。

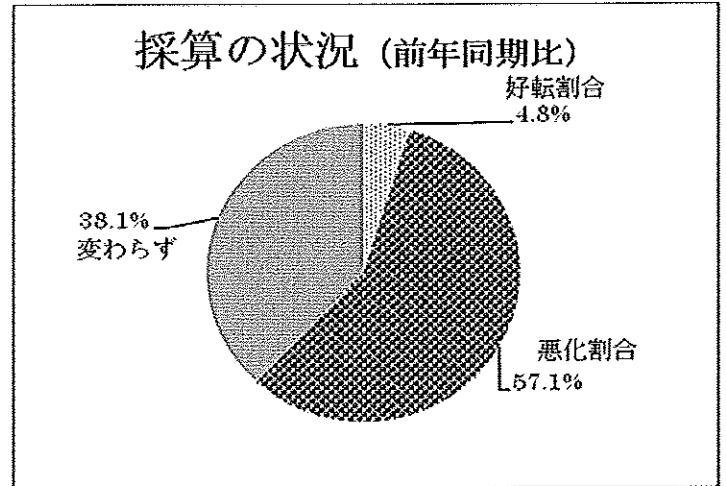
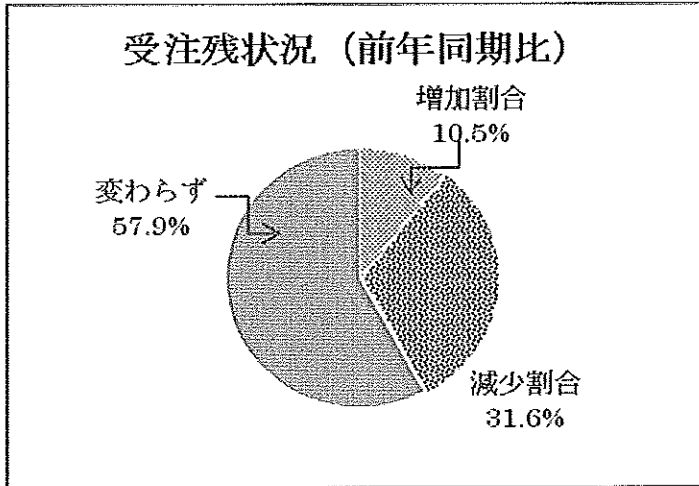
今期の製造業は、前期と比較して改善傾向を示している。特に、資金繰りが厳しいながら、11.8 ポイント改善された効果大きい。他項目は、売上・採算・原材料の仕入れ価格が横ばい傾向を示し、在庫数量は減少傾向を示している。在庫数量の減少より、資金繰りが好転と回答されたのか。従業員数が、増加傾向を示しているが、今後、注意深く見守る必要があろう。

2、 来期の製造業の状況の見通しについて—悪化の見通し—

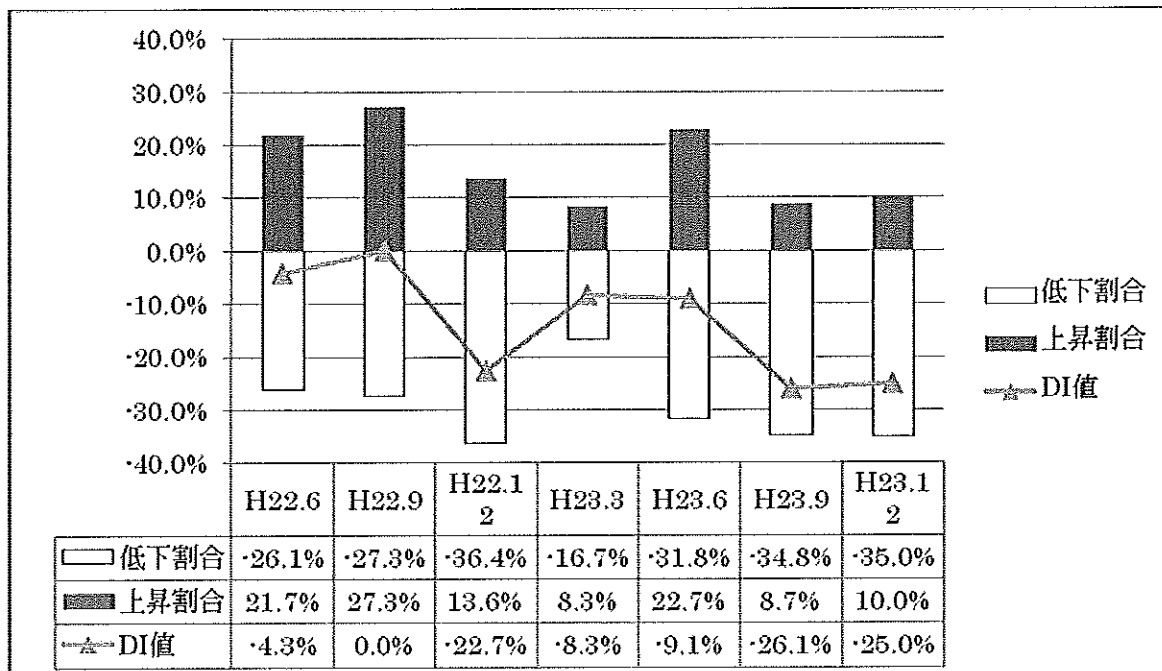
来期の見通しについては、今期 DI 値は $\Delta 36.4$ となり、10.3 ポイントマイナス幅が拡大し、業況は悪化すると予想している。前年同期 ($\Delta 38.1$) に対し、1.7 ポイントマイナス幅が縮小しているものの、ほぼ前年同期と並みと予想している。

項目別には、売上額は 4.6 ポイントマイナス幅が拡大、採算は、4.5 ポイントマイナス幅が縮小、販売価格は、0.0 となり横ばい、原材料価格単価は、22.3 ポイントが下落、原材料在庫数量は、1.6 ポイント原材料在庫数量が減少、従業員数は、15.0 ポイント減少、設備操業率は、2.8 ポイント悪化すると、それぞれ予想している。

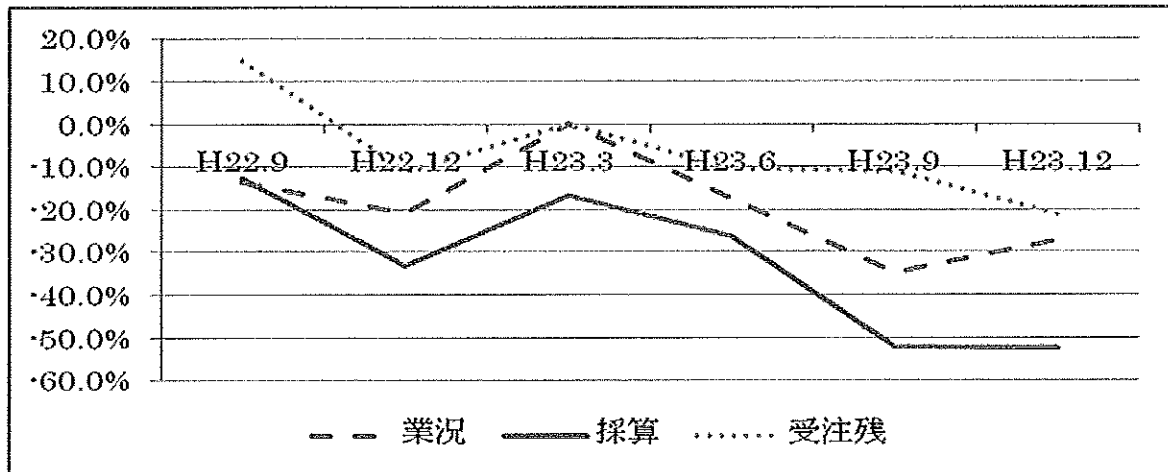
3、 受注残・採算・設備稼働率動向



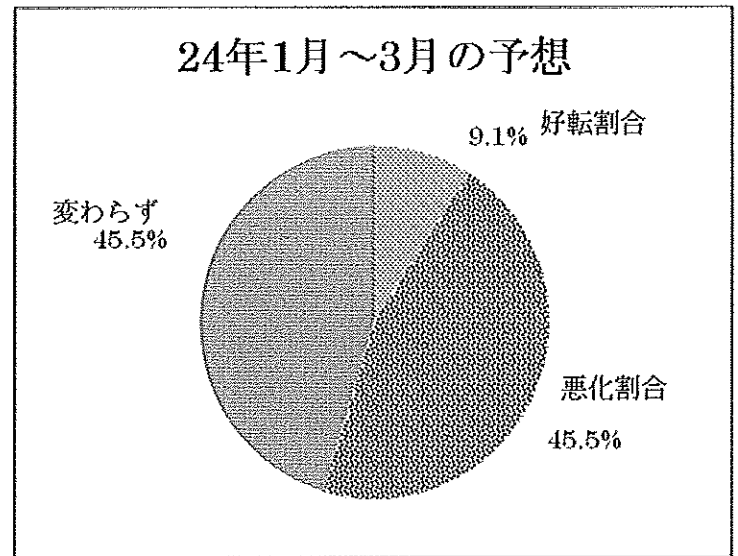
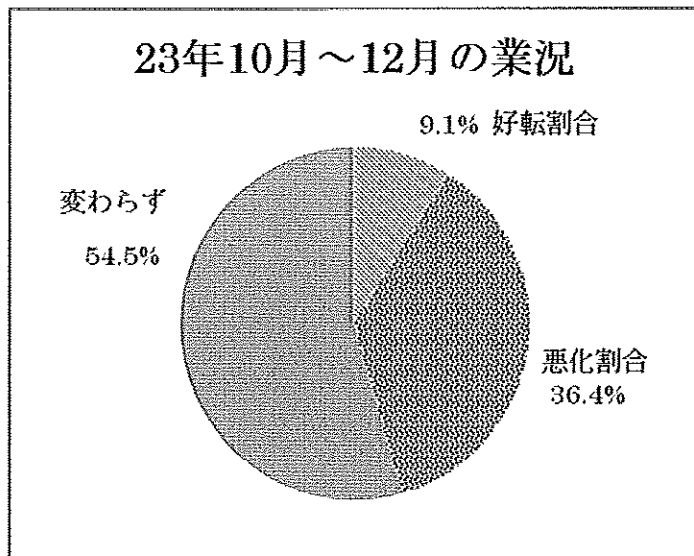
設備操業率の動向



4、 前期傾向値と業況判断の推移



業況判断



売上・収益・価格の動き

□製造業 22年10月～12月と比べた 23年10月～12月実績 (単位：%)

(DI 値指標)

	増加・上昇 過剰・好転	変わらず 適正	減少・低下 不足・悪化	H23.12 月期	H22.12 月期
売上額	13.6	40.9	45.5	△31.8	△8.3
受注残	10.5	57.9	31.6	△21.1	△11.1
採算	4.8	38.1	57.1	△52.3	△33.3
売上単価	9.1	81.8	9.1	0.0	△16.7
売上数量	13.6	40.9	45.5	△31.9	△16.7
原材料仕入単価	55.6	44.0	0.0	55.6	23.8
原材料在庫数量	5.6	61.1	33.3	△27.7	△14.3
資金繰り	4.5	63.6	31.8	△27.3	△29.2

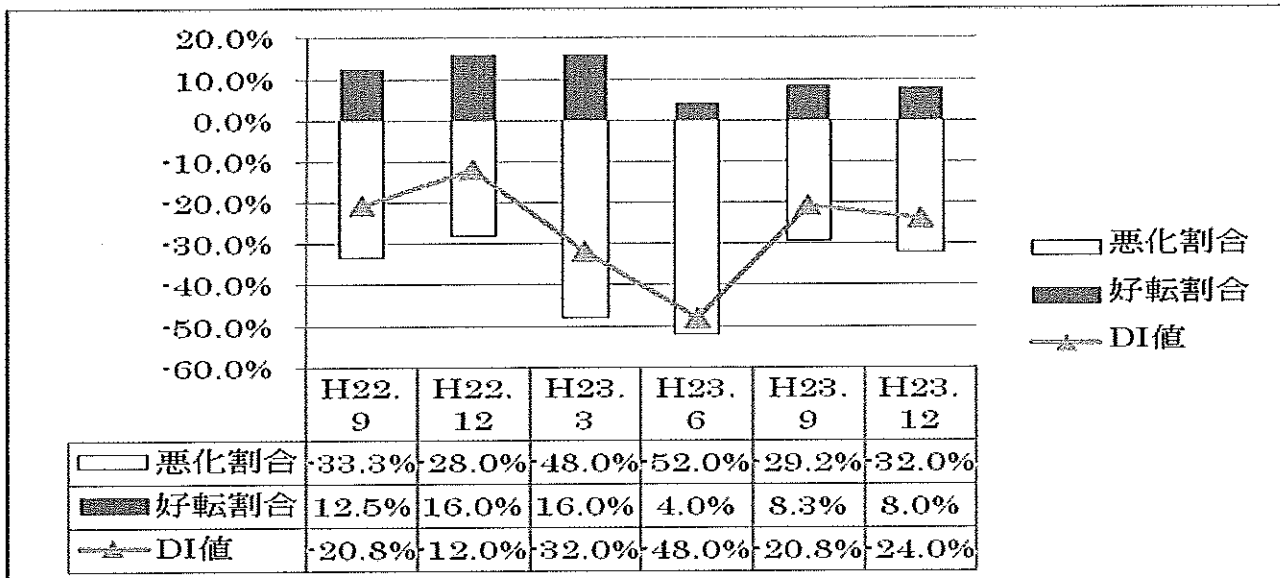
前年同月期と比較すると、売上額・採算・売上数量・仕入単価の指標の悪化が見られる。しかし、売上単価が上昇しているが、それ以上に原材料仕入単価が上昇している状態である。

II、建設業

1、景況—悪化—

業況判断指数 DI 値（「良い」－「悪い」企業割合）は、△24.0 となり、9 月調査比較して 3.2 ポイントマイナス幅が拡大し業況は悪化した。前年同期（△12.0）に対しても、12.0 ポイントマイナス幅が拡大し悪化している。

業況判断 [DI]



1) 完成工事額、採算の状況・・・好転

完成工事額の今期 DI 値は、△16.0 で 18.8 ポイントマイナス幅が縮小し好転した。

採算面の今期 DI 値は、△13.0 で 7.8 ポイントマイナス幅が縮小し好転した。

2) 契約残・・・大幅に減少

契約残の今期 DI 値は△12.0 で、21.1 ポイントの大幅に契約残が減少した。

3) 価格の状況・・・高止まり

仕入単価の今期 DI 値 52.0 で 2.0 ポイント上昇した。

4) 資金繰りの状況・・・悪化

資金繰りの今期 DI 値△12.0 で 7.8 ポイントマイナス幅が拡大し、悪化した。

5) 従業員の動き・・・減少

従業員の動きは、今期 0.0 で 4.2 ポイント減少、従業員数は減少した。

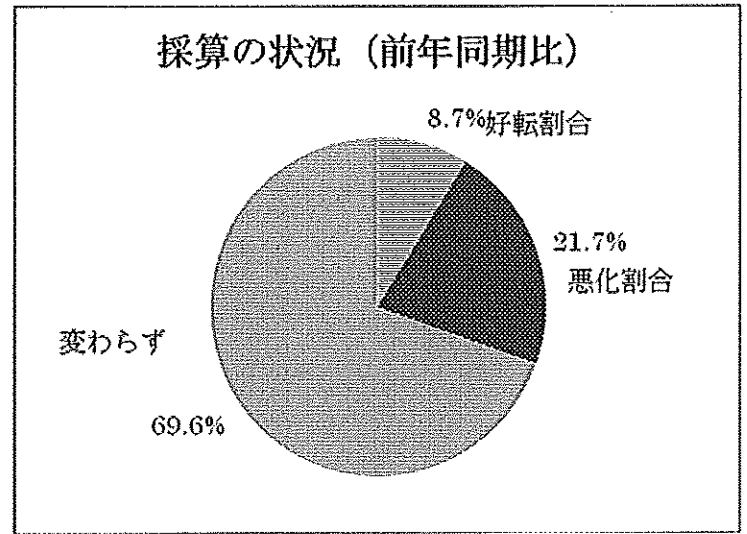
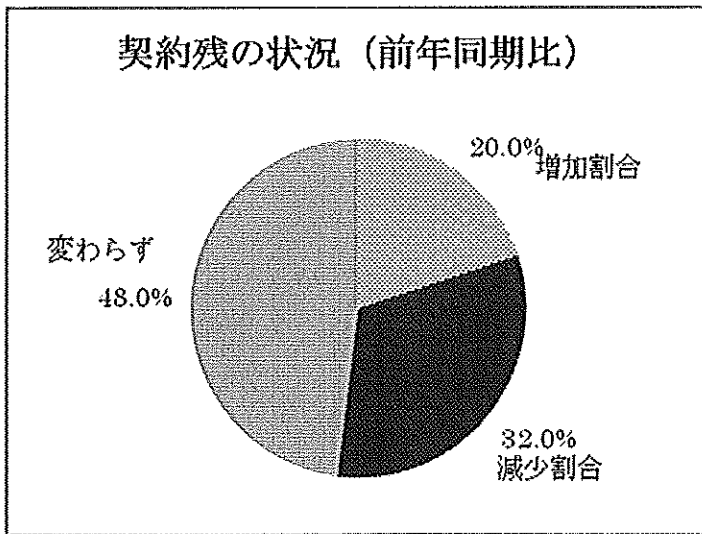
今期の建設業全体には、悪化と見込んでいるように思われる。巡回していると、忙しいとの声を多く聞き、職種によって景況感は大きく違うようである。また、季節的要素が非常に大きいと感じられる。なお、今期も、仕入単価の高止まりといったことが大きな問題となっている

2、 来期の全体の業況の見通しについて—悪化の見通し—

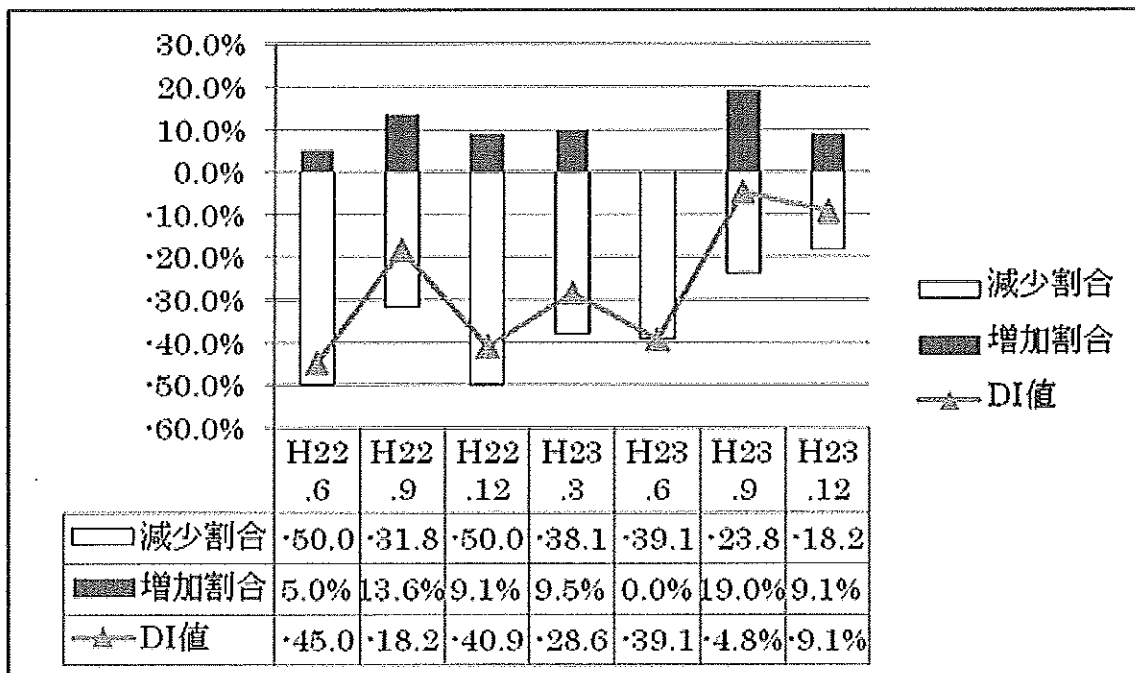
来期の業況の見通しについては、今期 DI 値は△50.0 となり、27.3 ポイントマイナス幅が拡大し、業況は大幅に悪化すると予想している。前年同期（△21.7）に対して、28.3 ポイントマイナス幅が悪化すると予想している。

項目別には、完成工事額は、28.0 ポイントマイナス幅が拡大し、採算は 7.0 ポイントマイナス幅が拡大し悪化すると、仕入単価は、0.0 ポイントで同じ水準で高止まりすると、資金繰りは、24.0 ポイントマイナス幅が縮小し緩和すると、従業員数は、5.1 ポイントマイナス幅が縮小し増加すると、それぞれ予想している。

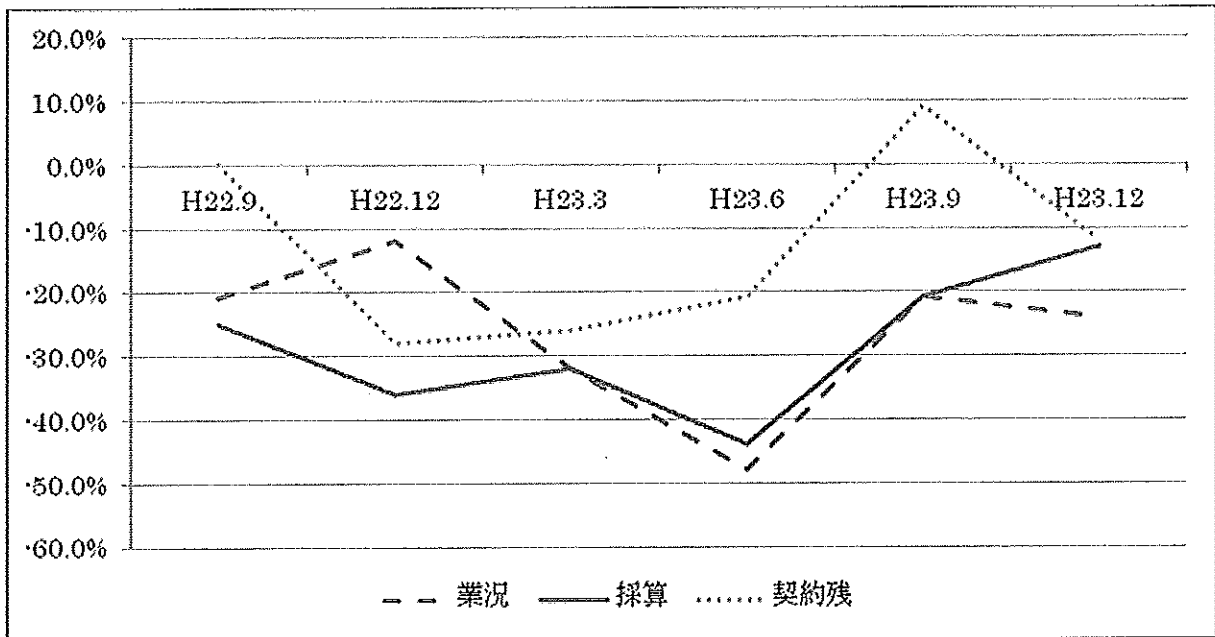
3、 契約残、採算、引合いの動向



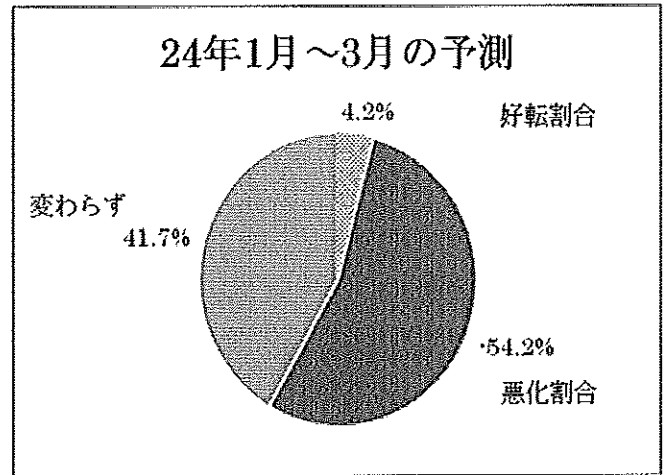
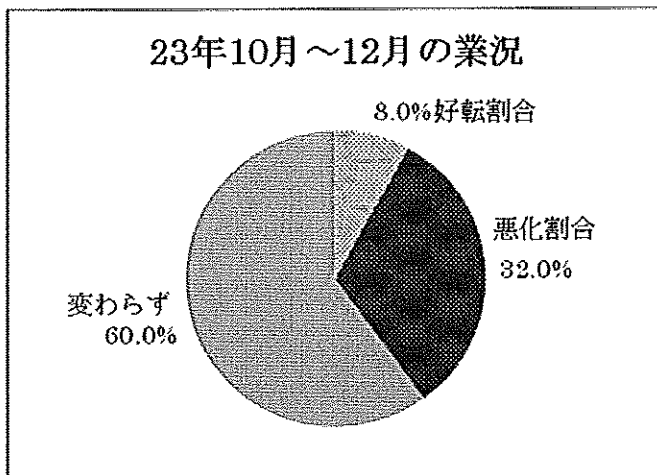
引合いの動向（前年同期比）



4、 前期比傾向値と業況判断



業況判断



売上・収益・価格の動き

□建設業 22年10月～12月と比べた 23年10月～12月実績 (単位: %) (DI 値指数)

	増加・上昇 過剰・好転	変わらず 適正	減少・低下 不足・悪化	H23.12 月期	H22.12 月期
完成工事高	24.0	36.0	40.0	△16.0	△40.0
受注額	28.0	36.0	36.0	△8.0	△36.0
採算	8.7	69.6	21.7	△13.0	△36.0
材料仕入れ単価	52.0	48.0	0.0	52.0	16.0
引合い	9.1	72.7	18.2	△9.1	△40.9
契約残	20.0	48.0	32.0	△12.0	△28.0
資金繰り	8.0	72.0	20.0	△12.0	△28.0

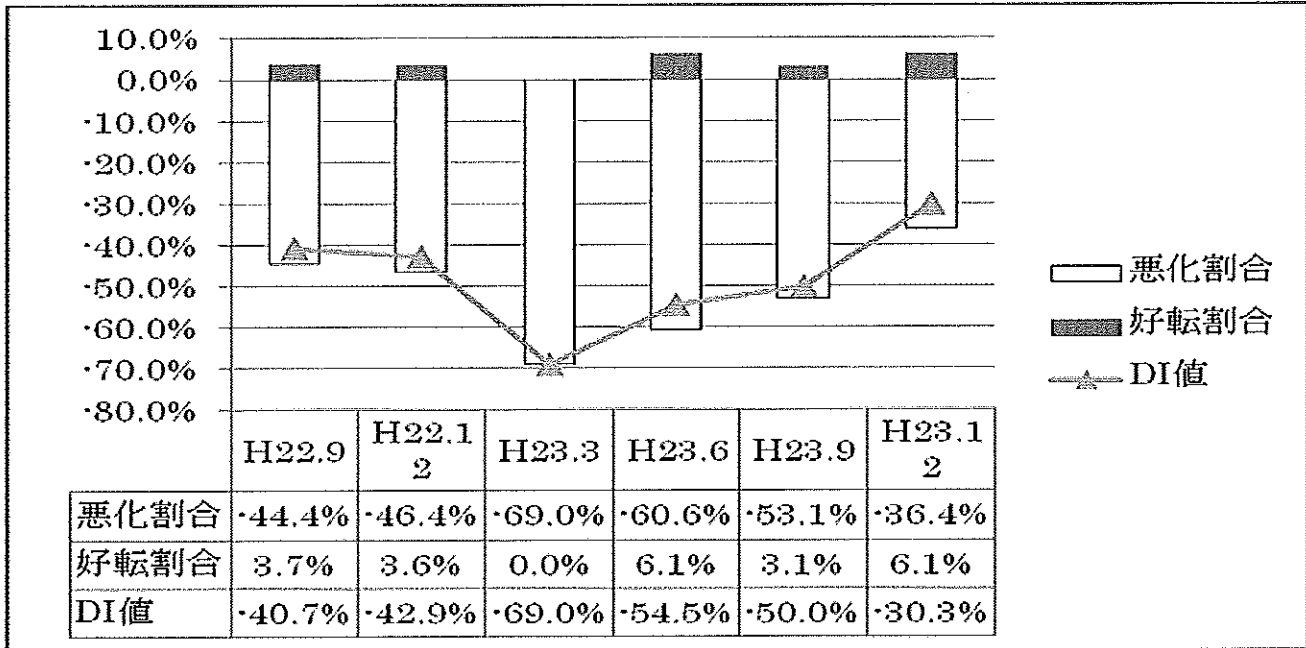
昨年同月より、材料仕入れ単価以外は、改善した DI 値を示している。

Ⅲ、小売業

1、景況—改善—

業況判断指数 DI 値（「良い」－「悪い」企業割合）は、△30.3 となり、9 月調査と比較して 19.7 ポイントマイナス幅が大きく縮小し、業況は改善した。前年同期（△42.9）に対しても、12.6 ポイントマイナス幅が大きく縮小し、業況は改善した。

業況判断 [DI]



1) 売上額、採算の状況・・・大幅な改善

売上額の、今期 DI 値は△27.3 で 24.2 ポイントマイナス幅が縮小し、大幅に改善した。
採算面は、今期 DI 値は△34.4 で 15.6 ポイントマイナス幅が縮小し、大幅に改善した。

2) 在庫数量・・・減少

在庫数量は、今期△21.9 で、15.6 ポイント在庫数量が減少している。

1) 価格の状況・・・客単価は上昇・商品仕入単価は横ばい

客単価は、今期 DI 値△30.3 で、15.2 ポイントマイナス幅が縮小し、客単価は上昇した。
商品仕入単価は、今期 DI 値 6.3 で 3.1 ポイントプラス幅が縮小し、仕入単価は低下した。

2) 客数の動き・・・微増

客数は、今期 DI 値△42.4 で 6.0 ポイントマイナス幅が縮小し、客数は若干ながら増加した。

3) 資金繰りの状況・・・ほぼ横ばい

資金繰りは、今期 DI 値△27.3 で 2.3 ポイントマイナス幅が上昇した。

4) 従業員の動き・・・減少

従業員数は、今期△12.9 で 9.3 ポイントマイナス幅が拡大し減少した。

今期の小売業全体には、改善傾向を示している項目が多かった。業況判断グラフで示している通り、悪化割合が 16.7 ポイント縮小したことにより DI 値が改善された。また、各項目とも悪化割合が少なくなり、不変との回答が多くなっている。

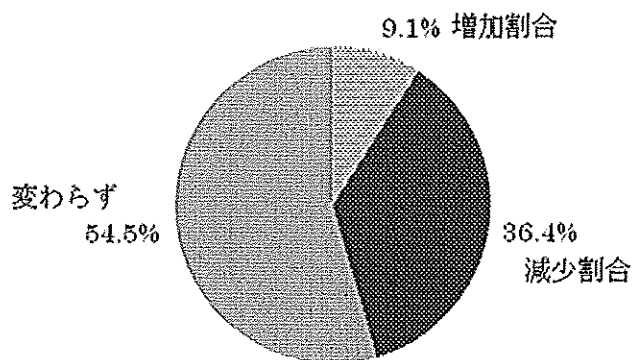
2、 来期の全体的な業況の見通し—改善の見通し—

来期の業況見通しについては、今期 DI 値は△41.9 となり 14.4 ポイントマイナス幅が縮小し、業況は改善すると予想している。

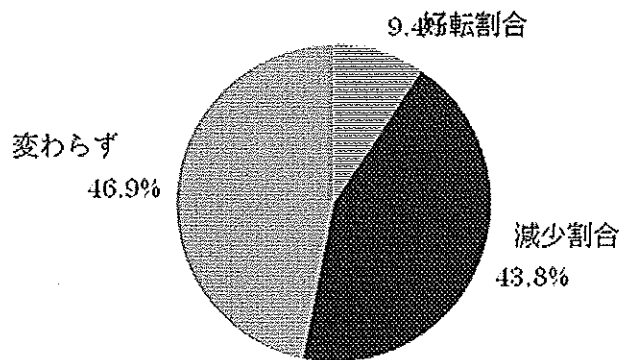
項目別には、売上額は、6.1 ポイントマイナス幅が縮小し、客単価は、5.3 ポイントマイナス幅が縮小し、客数は、9.1 ポイントマイナス幅が縮小すると予想している。採算面は、1.1 ポイントマイナス幅が増加したがほぼ横ばい、商品仕入単価は、3.2 ポイント上昇し、資金繰りは、9.0 ポイントマイナス幅が拡大し逼迫すると、従業員数の動きは、6.2 ポイントマイナス幅が増加し減少すると予想している。

3、 売上、採算、客数の動向

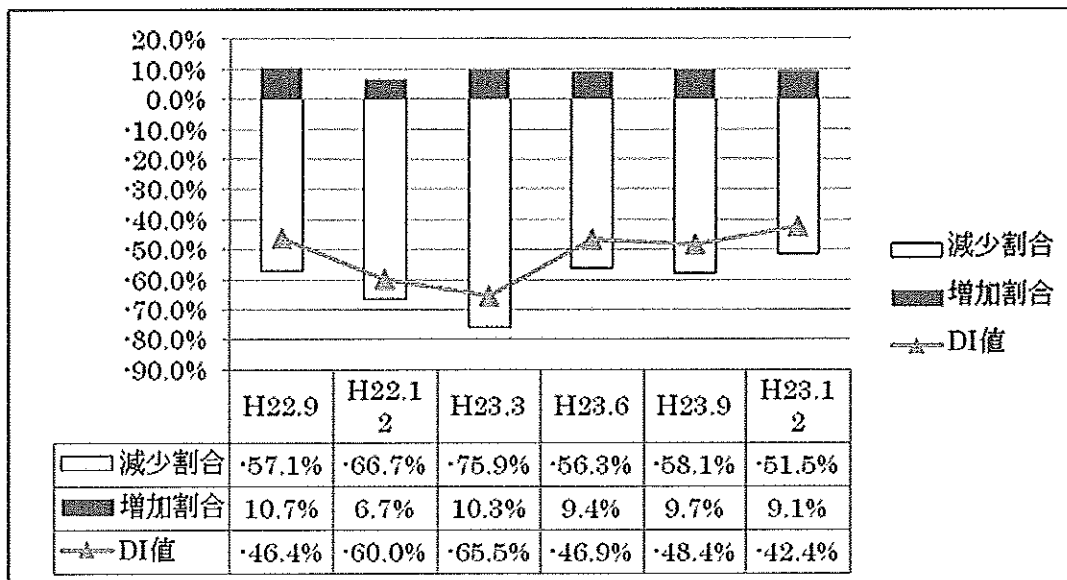
売上額の状況（前年同期比）



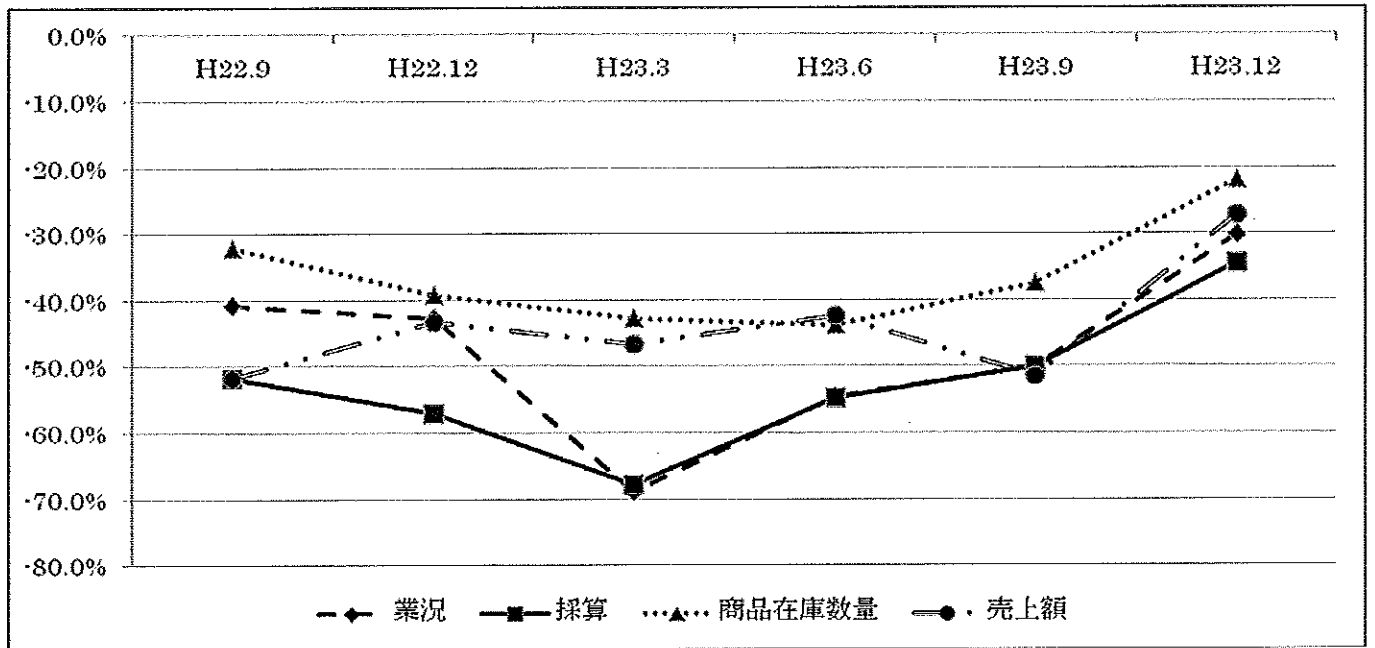
採算の状況（前年同期比）



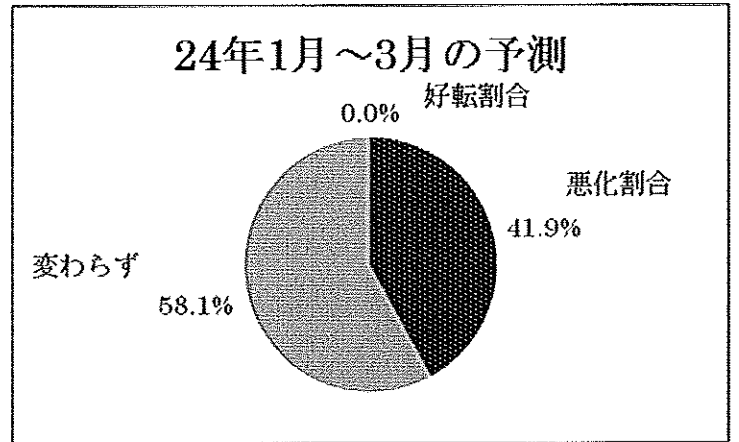
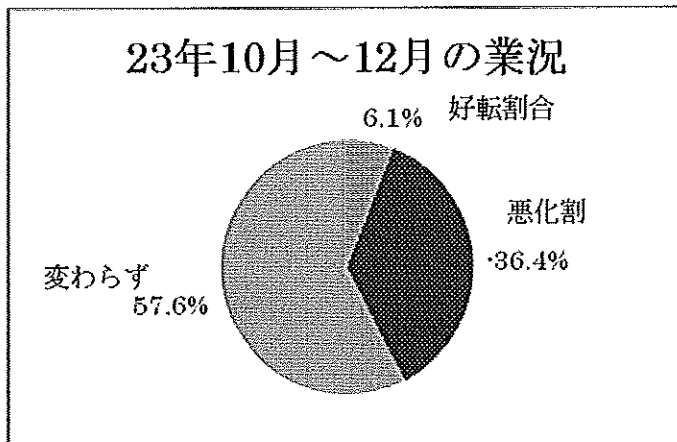
客数の動向



4、 前期比傾向値と業況判断



業況判断



売上・採算・価格の動き

□小売業 22年10月～12月と比べた 23年10月～12月実績 (単位: %)

(DI 値指標)

	増加・上昇 過剰・好転	変わらず 適正	減少・低下 不足・悪化	H23.12 月期	H22.12 月期
売上額	9.1	54.5	36.4	△27.3	△43.3
採算	9.4	46.9	43.8	△34.4	△57.1
客単価	6.1	57.6	36.4	△30.3	△43.3
客数	9.1	39.4	51.5	△42.4	△60.0
商品仕入単価	18.8	68.8	12.5	6.3	6.9
商品在庫数量	9.4	59.4	31.3	△21.9	△39.3
商品仕入額	15.6	46.9	37.5	△21.9	△39.3
資金繰り	8.1	54.5	36.4	△27.3	△41.4

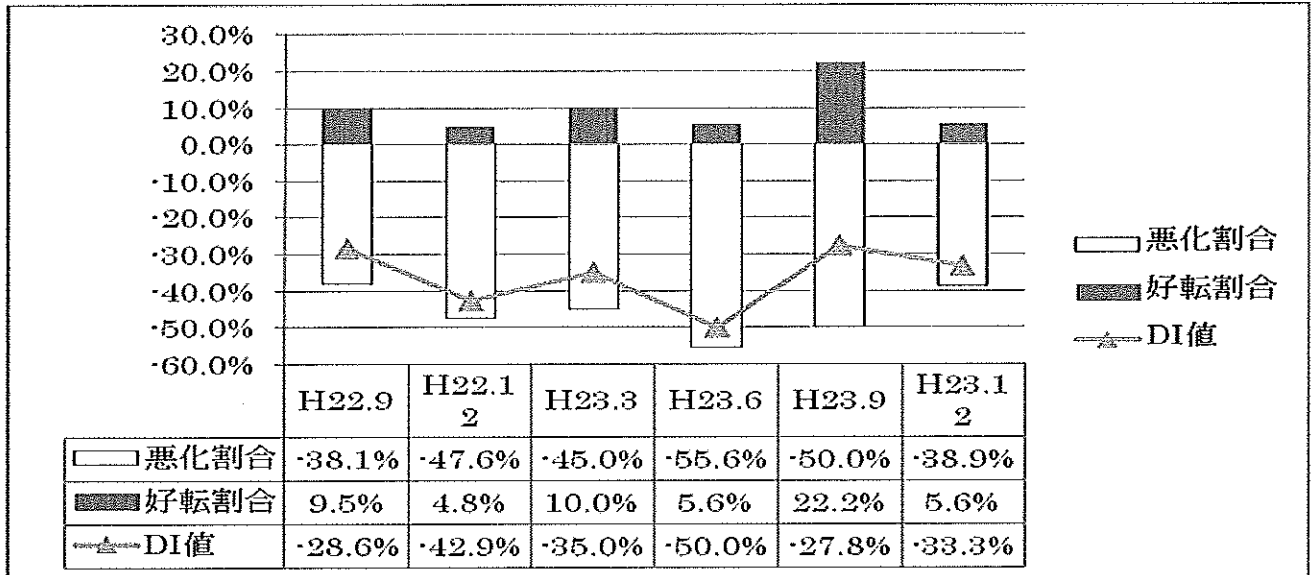
昨年同月より、商品仕入単価以外は、改善した DI 値を示している。

IV、サービス業

1、景況一悪化一

業況判断指数値 DI 値（「良い」－「悪い」企業割合）は、△33.3 となり、9 月調査と比較して 5.5 ポイントマイナス幅が拡大し業況は若干悪化した。但し、前年同期（△42.9）に対しは、9.6 ポイントマイナス幅が縮小し、業況は改善した。

業況判断[DI]



1) 売上額、採算の状況・・・若干悪化

売上額は、今期 DI 値△38.9 で 5.6 ポイントマイナス幅が若干拡大し悪化した。

採算面は、今期 DI 値△5.6 で売上額同様に 5.6 ポイントマイナス幅が若干拡大し悪化した。

2) 価格の状況・・・販売価格低下・仕入価格上昇

客単価は、今期 DI 値△44.4 で客単価は 16.6 ポイントマイナス幅が大幅に低下した。

仕入価格は、今期 DI 値 11.1 で 5.5 ポイントプラス幅が上昇した。仕入価格は、上昇している。

3) 資金繰りの状況・・・悪化

資金繰りは、今期 DI 値△23.5 となり 17.9 ポイントマイナス幅が拡大し悪化した。

4) 利用客数の動き・・・横ばい

利用客は、今期 DI 値△38.9 となり 0.0 ポイント増減なしとなった。

5) 従業員数の動き・・・ほぼ横ばい

従業員数は、今期△6.3 となり 5.5 ポイントマイナス幅が縮小している。

今期のサービス業については、3月に発生した東日本大震災による落ち込みから9月には脱却し、今期12月も、ほぼ横ばいの業況判断を示している。この調査は、11月15日現在での調査のため、これから人が動く時期にどのような動きになるか注目しなければならない。また、理美容業界においては、安売り店が管内にも進出が目立ち始め、どのように差別化を図るかが大きな課題となっている。

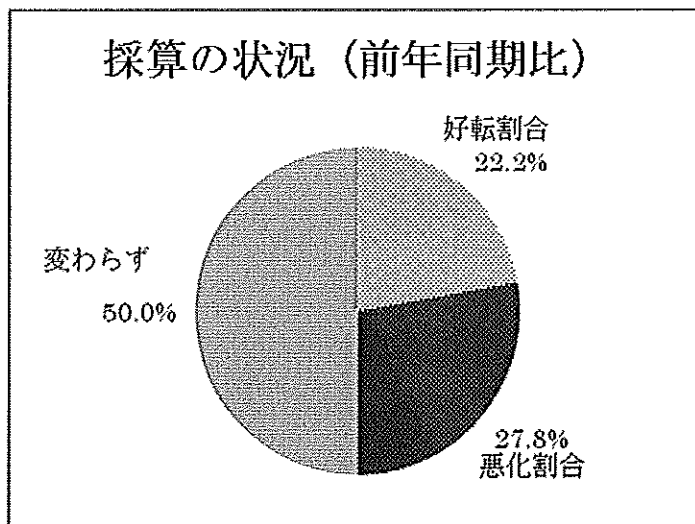
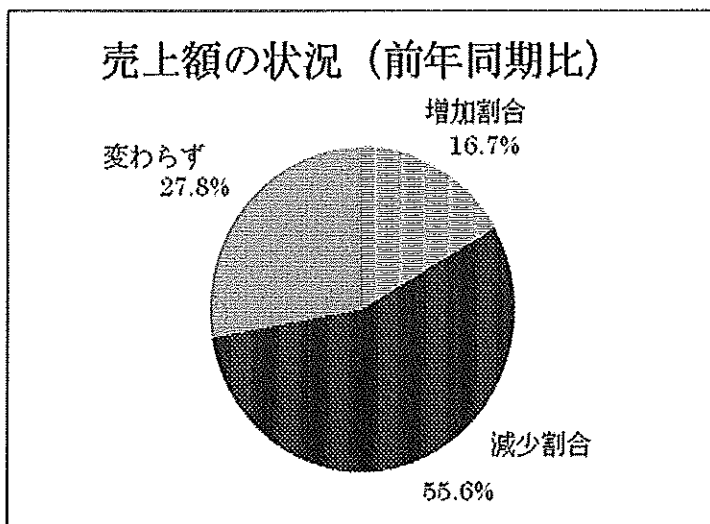
2、 来期のサービス業の状況の見通しについて—改善の見通し—

来期の業況の見通しについては、今期 DI 値は△29.4 となり、5.9 ポイントマイナス幅が縮小し、業況は若干改善すると予想している。

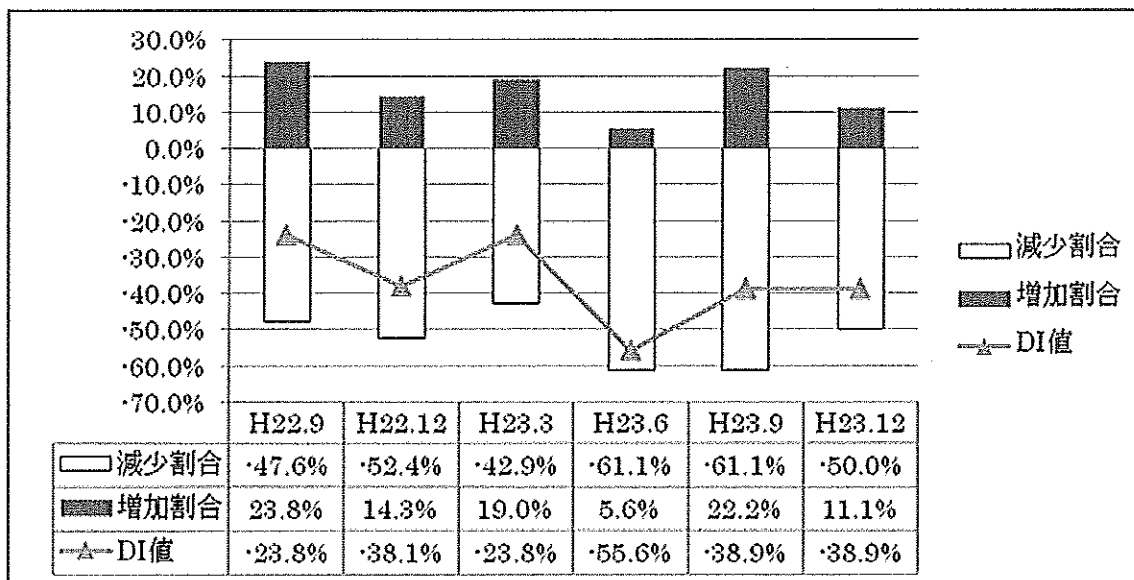
項目別には、売上額は、11.1 ポイントマイナス幅が縮小、採算は、16.9 ポイントマイナス幅が拡大、客単価は、5.5 ポイントマイナス幅が縮小、利用客数は、同じ数値を示している。

来期の業況は、一進一退で推移するのではないかと、多くの経営者が予想している。

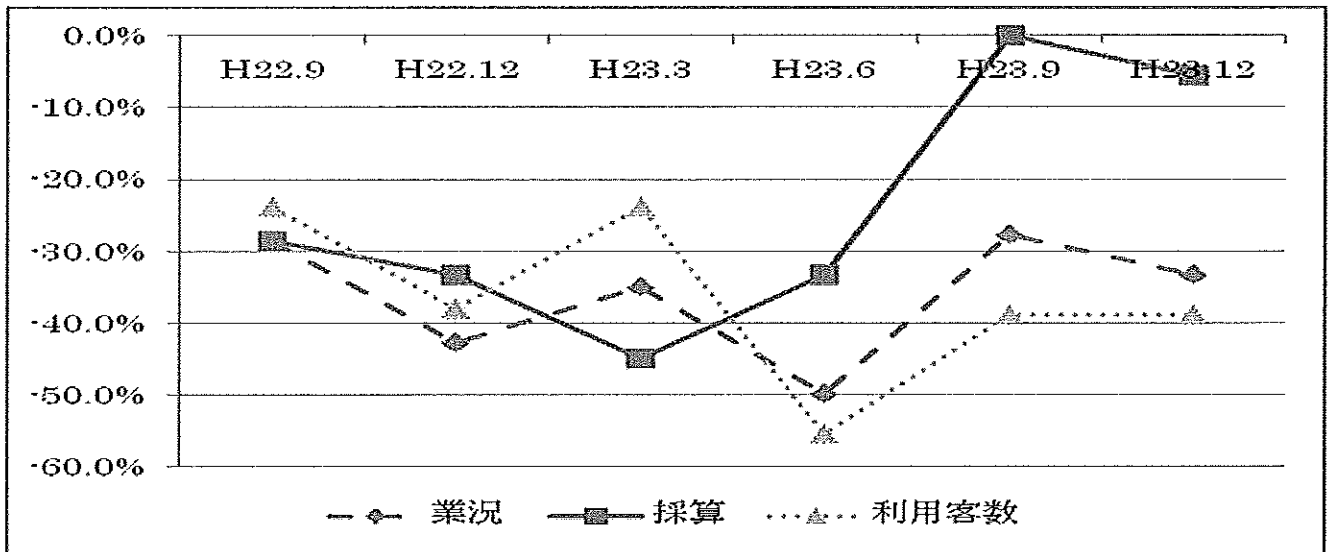
3、 売上、採算、利用客数の動向



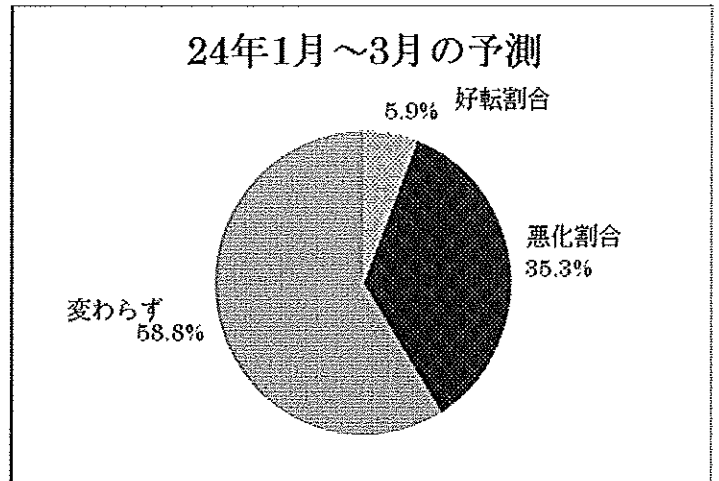
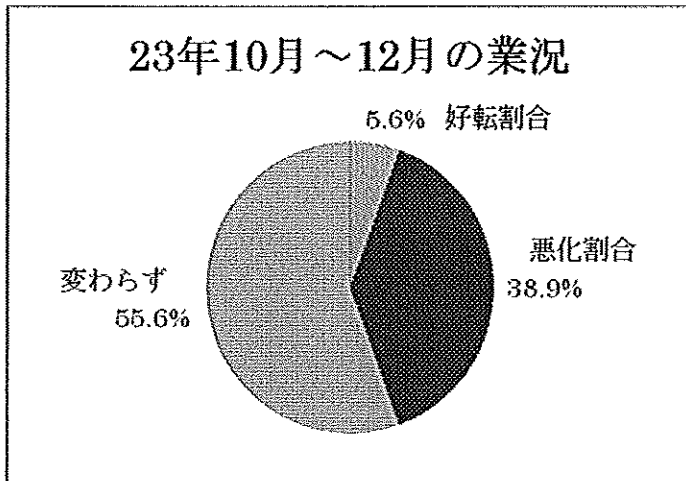
利用客数の動向



4、 前期比傾向値と業況判断



業況判断



売上・収益・価格の動き

□ サービス業 22年10月～12月と比べた 23年10月～12月実績 (単位: %)

(DI 値指数)

	増加・上昇 過剰・好転	変わらず 適正	減少・低下 不足・悪化	H23.12 月期	H22.12 月期
売上額	16.7	27.8	55.6	△38.9	△33.3
採算	22.2	50.0	27.8	△5.6	△33.3
客単価	0.0	55.6	44.4	△44.4	△21.1
利用客数	11.1	38.9	50.0	△38.9	△38.1
仕入単価	11.1	88.9	0.0	11.1	7.7
資金繰り	5.9	64.7	29.4	△23.5	△15.0

昨年同月に比較して経営者の感覚は、客単価の減少、仕入単価の上昇を懸念している。その他は、昨年とほぼ横ばいとみている。